



## 4. 活動内容

### (1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

2012年にユネスコスクール加盟の申請をして、2014年4月に認定されました。本校が持つ海外姉妹校の全てが集合して行う4カ国5校姉妹校交流会をユネスコスクールの取り組みとして申請させていただきました。今回のご報告は姉妹校交流会を含めて3つの柱でご報告させていただきます。申請から認定までの活動も含めてご報告いたします。

テーマ: 世界遺産を通して考える地球の未来 姉妹校生徒と一緒に考えよう

### 4カ国5校姉妹校交流会とは

4ヶ国5校姉妹校交流会は、本校のすべての海外姉妹校が日程を調整して集合する2週間の交流会で、1997年に第1回を本校が会場となって実施してから、2年に一度をベースに行われています。参加できる生徒の人数は各校5名で、会場となる学校が代表教員2名とともに「招待」する形となっています。

姉妹校交流会の特徴は、テーマを持って集合することです。あるテーマをもとにプログラム全体を作ります。その中にはテーマの基づく参加生徒たちによるプレゼンテーションとグローバルディスカッションなども含まれます。今回の姉妹校交流会のテーマは「世界遺産を通して考える地球の未来」でした。世界遺産が直面している世界規模の問題から、地球の未来を考えることが今回の交流会の目的でした。

190を超える世界の国々のうち、たった4カ国ではあるけれども、多様な国の高校生が同じテーブルに着き、同じテーマを基に議論をする場として大変有意義な教育活動であり、他校にない実践として誇りに思うべきものであると考えています。

### 2014年度4ヶ国5校姉妹校交流会

日程 2014年4月28日(月)～5月9日(金)2週間

#### 参加校

南京外国語学校(中国南京市)

Shirley Boys' High School / Marian College (ニュージーランド クライストチャーチ市)

Salesian College Rupertswood(オーストラリア ビクトリア州)

東邦高等学校(日本)

テーマ 世界遺産を通して考える地球の未来

会場 東邦高等学校(日本)

#### 当日までの事前準備

海外姉妹校の各校が、自分たちの国にある世界遺産を一件選び、その価値や歴史など、フィールドワークを含めて学習しました。姉妹校各校の事前準備の様子は割愛しますが、本校生徒の世界遺産学習についてまとめます。

2013年10月の段階でプレゼンテーションする世界遺産を『原爆ドーム』とした。原爆ドームにした理由は、日本にある世界遺産の中で、唯一の『負の遺産』であるということ、そして、本校は伝統的に『平和教育』を大切にしてきている学校だからという2点である。世界遺産『原爆ドーム』を通して、自分たちにできる平和の発信を考えたいという思いであった。



★Salesian College “Rupertswood” サレジアンカレッジ (オーストラリア)

テーマ：Great Ocean Road 自然環境とオーストラリアの歴史

オーストラリア・ビクトリア州の南海岸沿いを走る通りで全長104km。すでに国内の自然遺産に登録された周辺の奇岩群や、雄大な自然を世界遺産にするための取り組みを紹介した。この道の開拓は1919年に始まり、1932年に終わるまで第1次大戦の帰還兵に政府が仕事として与えたもので、第2次大戦で亡くなった人々に捧げられた。オーストラリア南部の観光地として最も人気があるところの一つで、世界遺産登録に向けた条件整備についてのプレゼンテーションであった。

★東邦高校 (日本)

テーマ：原爆ドーム Hiroshima Peace Memorial 恒久平和について

日本にある唯一の「負の遺産」から、恒久の平和について考えた。事前の学習の段階で、被爆者の体験談を伺い実際に広島にも訪れた。プレゼンテーションでは被害の状況を説明した上で、人々がどんな人生をその後歩んできたかについての実話を紹介した。「被爆者や戦争体験者の高齢化が進み、自分たちは体験者から直接話を聞ける最後の世代だ。ここで学んだことを語り継ぐことは、私たちにできるささやかな平和を守る活動だ」と締めくくった。たくさんの質問が出て、生徒たちは英語でのプレゼンテーションに苦勞もしたが、伝えたいことを伝えられた喜びをかみしめることとなった。

※その後東邦生5名の呼びかけで、一枚のボードに虹とPEACEという文字を折り鶴で作る取り組みを行った。この取り組みは白川郷合宿の夜から始めて、大村知事も本校での視察の際、作製に参加した。

★Shirley Boys High School シャーリーボーイズハイスクール (ニュージーランド)

テーマ：Fox and Franz Glaciers フォックス氷河・フランツ氷河をめぐる温暖化の影響

両氷河の場所、マオリ族にとっての意義、氷河の形成についての説明の後、これらの氷河が直面している課題について解説がされた。一つは地球温暖化である。これにより長い時間をかけて作られた氷河が溶けており、再び形成されると言うことは難しいことを、年代を追ってパズルを使ってわかりやすく説明した。

二つ目の指摘は観光地化の問題である。観光地化によるゴミや排気ガス、騒音の問題は氷河の破壊のみならず、周辺の地域を含めて環境保全の観点から深刻な問題となっている。これらを指摘した後、これらの氷河を次世代につなぐために観光客の数を減らすこと、または制限を加えることなどの問題提起がされた。

★Marian College マリアンカレッジ (ニュージーランド)

テーマ：The Starlight Reserve Lake Tekapo テカポ湖の星空を世界遺産に

ニュージーランド南島中央部に位置するテカポ湖周辺の星空はとても美しく、その星空や自然美を世界遺産にしようとする運動を含めたプレゼンテーションであった。

テカポ湖の星空は、空気も綺麗で街の光による影響が少なく、世界ではまれに見られる好条件の整ったところである。星空を守り、科学・天文学・観光などに関わる可能性を持続させるために星空の保護区が作られている。プレゼンテーションの途中、星空を守っていくためにどんなルールを作ったらいいのかを全員で考える時間が作られていた。様々な国の生徒と一緒に考え行動するという今回の交流会の重要なポイントが具体化されていた。

街の光が明るすぎて星が見えにくくなっている状態による生物への影響や文化的問題も指摘。

まとめ

4カ国の高校生が自分の国の世界遺産についてレポートし、その価値などの一般的説明にとどまらず、そのサイトが直面するグローバルな問題についての指摘をしている。その指摘に対して何をやる必要があるのかを論じられた。それぞれのサイトが直面する問題の性質が違う

ために、『地球の未来を考える』という大きなテーマでの最終日のディスカッションは焦点が絞りにくい内容となってしまったが、世界遺産保全の観点から活発な意見交流がなされた。以下は、参加した生徒の言葉である。

I'm going to create within my school to discuss environmental issues and then a bigger group with in my country with all my schools in Christchurch and then nationally and globally (NZ 男)

I'm going to express to those around me about what I learnt. To express the beauty of different cultures to try and help protect what others cherish.(NZ 女)

Educate my family and friends about these sites to raise awareness.(NZ 女)

Inform my peers about what I've learnt here and persuade them to improve the impact they have on our environment.(AUS 男)

Organize debates relating to the controversies in protecting the sites.(中国 男)

Talk with many people and exchange our differences each other.(日本 女)

世界遺産の保全は、グローバルな課題解決と連動しており、保全活動は世界平和に資するものであると考えます。世界平和の構築はユネスコ憲章の理念に近づくことになるその一步に貢献できる交流会となった。

以下は2週間の交流プログラムである。

Date			Itinerary		
4月	27	日	Arrivals / Airport Pick up		
			SQ672 09:05 Shirley Boys' High School / Marian College KE 757 09:50 Ms Sue Nesbit / Ms Angela Cameron(Shirley Boys') CX536 15:10 Salesian College MU291 21:25 Nanjing Foreign Languages School		
	28	月	1	OPENING CEREMONY	
			2	記念写真 (数種類)	
			3	代表生徒同士の交流	
			4	ガイダンスなど	
			5	名古屋探検のガイダンス	
			6	未定	
			7	未定	
	29	火	(終日)名古屋観光 一日乗車券を使って		
	30	水	1	プレゼン準備	
			2		
			3	世界遺産プレゼンテーション&ディスカッション	
4					
5					
6					
授業後	部活動体験( 剣道部, 空手道部 )				
5月	1	木	1	美術科デッサン	
			2	美術科デッサン	
			3	クラス交流 2グループに分けて 2クラスと	
			4	クラス交流 2グループに分けて 2クラスと	

		5	クラス交流 2グループに分けて 2クラスと
		6	「白川郷」事前学習
2	金	「世界遺産」 白川郷	
3	土		
4	日		
5	月	ホストファミリーとともに	
6	火	ホストファミリーとともに	
7	水	1	訪問校からの授業 中国
		2	訪問校からの授業 ニュージーランド Shirley
		3	訪問校からの授業 オーストラリア
		4	訪問校からの授業 ニュージーランド Marian
		5	草木染め
		6	
8	木	1	着付け
		2	
		3	Shirley Boys High SchoolとTV 会議
		4	折り鶴 大村知事の視察
		5	「和菓子」にチャレンジ
		6	
		授業後	茶華道部との交流
9	金	1	まとめ「地球の未来を考えよう」
		2	
		3	各国の料理
		4	
		5	Thank you letter / Message Board
		6	さよならパーティーの準備
		授業後	閉会式 / さよならパーティー
10	土	SQ671 10:30 Shirley Boys' High School / Marian College MU720 16:00 Nanjing Foreign Languages School CX539 16:20 Salesian College	

## 社会的注目度

新聞やWebテレビの取材がありました。また、本校がユネスコスクールに加盟し「ESDユネスコ世界会議」(11月)も間近に迫っているということもあり、愛知県大村知事の視察を受けるという一幕もあり、社会的注目度の高い2週間となった。姉妹校交流会の様子は、UBrain TVというWebテレビのサイトから配信されています。

## 2) 生徒会による東邦ユネスコ委員会の立ち上げ

姉妹校交流会閉会の後、ユネスコ憲章の理念、ユネスコスクールとしての役割を理解した生徒会は、2014年12月東邦ユネスコ委員会(TUC)の立ち上げを決意した。

本校が位置する愛知県名古屋市は、2014年、名古屋空襲から70年を迎えた。名古屋空襲で犠牲になられた本校の教員生徒20名の慰霊祭を毎年本校では実施しているが、空襲70年の節目の年、本校がユネスコスクール加盟とも重なり、名古屋空襲があった12月13日を名古屋空襲慰霊の日として条例制定するよう名古屋市、河村市長に直接訴えた。名古屋空襲の事実を語り継ぎ、人々の記憶から忘れ去られないように何ができると考えた一つの形である。

12月13日を名古屋市慰霊の日として条例制定するために名古屋市に働きかけをして、名

古屋空襲の事実を忘れないための活動をつなぐために立ち上げたのが東邦ユネスコ委員会である。世界平和の持続性という点でユネスコスクールとして十分な取り組みになったのではないかと思う。この生徒会の取り組みは姉妹校交流会の成功に刺激を受けたものである。

以下の文章は、2014年12月13日に本校を会場にして開催された慰霊祭で、生徒会長が読み上げた声明文で、名古屋市長河村氏に託した文書である。

「名古屋市慰霊の日」の設置を求める要望書

東邦高校生徒会

会長 高橋佑希

今からちょうど70年前の今日12月13日、三菱発動機工場周辺(現在の東区大幸町)に米軍機B29が飛来し、その爆撃により勤労奉仕に来ていた学生や教員ほか多くの尊い命が犠牲となりました。本校では生徒18名と教員2名合わせて20名の命が瞬時に奪われました。

戦後50年を経た1995年(平成7)12月14日、有志多数の寄付によって本校校舎の入り口右手に、爆撃を受け弾丸の跡がくっきりと残る三菱発動機工場のコンクリートの残骸を「平和の碑」とし、以後、毎年12月に「慰霊の日」を定め太平洋戦争で犠牲となった学校関係者の冥福を学校全体で祈念する行事を行っております。

私たちは、実際に名古屋大空襲に合われた本校同窓生(辰巳会)の方々から耳を塞ぎたくないような当時の状況などを伺いました。その中で、罪もない人が無差別に同じ人間に殺されたり、家族と引き裂かれたりしたことに怒りを感じました。国を守るため戦地に行かなくてはいけなくなった人はもちろん苦しく辛い思いをしたことですが、残された人々もまた一生癒えない心の傷を負いました。それが戦争というものだと思います。

戦後69年が過ぎ、もう当時の状況を語り、一緒に平和について考える時間をもって頂ける方々はどんどんと少なくなっています。本日、70年という一つの節目の時を迎え、私たちは、今一度、戦争という悲惨な歴史を知り、戦争の残酷さや先人の苦労、平和の大切さを認識し、これからの私たちの平和な未来をつくるために積極的に行動を起こしていくことの出来る機会にしていきたいと存じます。

本校は今年の4月にユネスコスクールへの加盟が認められESD(持続可能な開発のための教育)推進拠点校となり活動してきました。ユネスコ憲章(前文)の中から一言を紹介したいと思います。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」。この言葉は、私たち一人一人が命の重さを十分に理解し、行動することによってこの世界を守っていかねばならないという事を教えてくれています。

私たちは、今日という日を二度と忘れず、未来につなげていくために、12月13日を「名古屋市慰霊の日」と定め、広く名古屋市民とともに、過去のこうした事実を語り継ぎ、永遠の平和を誓う日となるように、関係各位に広く働きかけていくことを決意しました。

本日の午前中に行いました慰霊の日特別企画の中で、この「名古屋市慰霊の日」条例の制定を一つの目標とする委員会として、TUC(TOHO UNESCO COMMITTEE)を設立しました。この委員会の活動を通して多くの高校生が未来の世界について議論し合い、考えを深め、広く発信していきたいと思っております。何卒私たちの願いが受け止められますことを心から願っております。

.....

### 1年生英語授業における世界遺産学習

1年生の12クラスにおいて、世界遺産学習に取り組んだ。各グループが世界遺産を一件選び、その価値、直面する課題、未来につなぐために何が出来るかを柱にレポート発表をした。それぞれのサイトを保全するための具体的な取り組みにまでは至らなかったが、世界遺産保全ということに関心を向けられたことは意義深かった。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

取り組みの中身によって活動時間は様々でした。

)